

第34期第5回研究会「テレビ放送番組の保存とその利用－国会図書館におけるテレビ放送番組の保存問題を巡って」（ジャーナリズム研究・教育部会企画）終わる

日 時：2014年5月19日(月) 18:30～20:00

場 所：上智大学12号館3階12-301教室

問題提起者：清水直樹（国立国会図書館）

司 会 者：柴野京子（上智大学）

参 加 者：30名

記録執筆者：柴野京子

テレビ映像に関するアーカイブズの問題は、文化的、技術的観点および言論と報道の自由という観点から、近年多くの関心が寄せられている。とくに、納本制度との関連から検討されてきた国立国会図書館のアーカイブズ化をめぐっては、最近ふたたび国会議員を中心に具体化を求める動きもある。

今回の研究会は、こうした背景から経緯の確認と論点の整理、共有を目的として開催した。問題提起者からは、まず衆参両院合同検討会の設置にかかわる時系列の説明が行われたのち、本件はあくまで国会案件であって、国立国会図書館が主導した蔵書の電子化プロジェクトなどとは異なること、現在まだ論点を集約している段階であることが、前提として示された。そのうえで、意見聴取で集められた論点および、フランスの *ina* (*institut national audiovisuel*) をはじめとする諸外国の事例が紹介された。

後半のディスカッションでは、参加者から、国会図書館における国会議員の利用頻度、おもな論点のひとつである被取材者のプライバシー、および報道の自由と国会図書館の位置づけについて、それに対し、公共知としてアーカイブズ化し、公開することおよび、包括収集しうる唯一機関としての国会図書館の優位性、地方局のアーカイブズ化の絶対的な必要性などの意見が出された。また問題提起者から、欧米と日本の放送制度と、それを統括する組織の相違が、アーカイブズ的设计や実施に大きく影響していることも述べられた。参加者の関心は非常に高く、議論を共有していく場として今後も継続的にこの問題を議論していくこととして、閉会した。

なお、本研究会は、上智大学メディア・ジャーナリズム研究所との共催の研究会として開催した。